

# スキルアップ研修

## 名古屋地方気象台講座②

### — 地震と津波について —

開催日時：令和2年2月13日（木） 午後1時30分～午後3時20分

開催場所：東特会館 4階 会議室

主催：NPO法人 愛知県防災士会

参加者：愛知県防災士会 防災士 18名

講師：気象庁 名古屋地方気象台 東海地震防災官

### 中村 真也 氏

名古屋地方気象台のご協力により防災スキルアップ研修第2回目を、中村 真也 東海地震防災官を講師にお招きし、「地震と津波について」を、パワーポイントと72ページにわたる席上配布資料により説明を頂きました。



自己紹介をされる中村防災官

冒頭、寺島理事長より、『いつ南海トラフ巨大地震が襲ってくるか判らない状況において、今回の「地震と津波」のメカニズムを理解することは、防災・減災に繋げる一助と位置付け、このスキルアップ研修の時間を防災士の皆様のお役に立てて頂ければ幸いです。』と挨拶を述べた後、本題の名古屋地方気象台中村防災官からスキルアップ研修を始めて頂きました。

今日の説明の内容は、①主な地震・津波災害、②過去の地震及び将来発生が懸念される地震、③気象庁の地震・津波監視と警報・情報等、④地震・津波から身を守るために、の4つの構成からなっています。

#### ① 主な地震・津波災害

海溝型地震の例から津波の発生と成長を段階的に変化していく様子を捉えた状況を説かれ、また、津波と風浪の違いについて、風浪は海面の海水だけが押し寄せる状況を言い、津波は水深が浅くなると徐々に速度が遅くなり、後ろから付いてくる波が前の津波に追いついて高波となることなどにつきまして説明がありました。

また、他に津波の特徴として平成23年の東北地方太平洋沖地震の際

には、北上川河口から入ってきた津波が50Kmも遡上したという説明をされました。

次に名古屋市を中心に愛知県内で想定される災害に液状化現象を挙げられました。地震で激しく揺さぶられ、泥水の様になって地面に高低差が出来、建物など構造物の傾倒・倒壊のほか、電柱の傾倒による停電、ガス・水道管が浮き上がり、各家庭に供給が出来なくなる事象が発生したり、或いは、堤防の沈下や損壊を引き起こす事象について説明を頂きました。

また、規模の大きな揺れからくる土砂災害にも注意が必要との例を、熊本地震による斜面崩壊の末、阿曾大橋の崩落に繋がった事例や長周期地震動についても説明を頂きました。



講師の説明に聞き入る防災士

## ② 過去の地震及び将来発生が懸念される地震

過去の大地震と地震調査委員会の長期評価などを踏まえ、平成7年兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）と平成28年熊本地震、更には、明治24年の濃尾地震及び昭和20年の三河地震の特徴と被害状況を振り返り、将来発生の懸念を有する中部地方の主な活断層と地震可能性を表すランク表を見ていくと共に海溝型地震と活断層地震の特徴と被害状況、そして、南海トラフ巨大地震が30年以内に発生する割合が、70%～80%となっている状況を鑑み、被害想定は東日本大震災を超越する規模となることと、日本経済の破綻に繋がりがねない状況から防災・減災の対策を構築していく重要性を説かれました。



前列で説明をされる中村防災官

## ③ 気象庁の地震・津波監視と警報・情報等

気象庁が行っている【A. 地震と津波の監視、B. 地震情報、C. 大津波警報・津波警報等、D. 南海トラフ地震に関する情報、E. 防災気象情報の伝達】に関して十分理解した上で、適時・適切な初期対応に伴う早期避難をすることは、時間的な余裕を持つことと、命を守る行動に直結することを、常日

頃から認識しながら、自らが瞬時に行動へ移せることができるよう訓練等の重要性を学ばせて頂きました。

説明に熱が入り過ぎ、時間を超過してしまったため、資料の最後まで説明を受けることができず残念でしたが、今回のスキルアップ研修を受講した防災士から、中村防災官の説明内容は、地震・台風・活断層・避難警報等に関する最新の情報を満載されており、小・中学生向けに防災・減災教室を開催する立場としては、基本に忠実で判り易く大変、良かったとのコメントを頂いています。



真剣にメモをとる防災士

文責・写真：阿部 健二